

JPACS/ePHDS 勉強会開催案内

統合デジタル健康管理システムの必要性と可能性 -----IHE的手法等による相互運用性を配慮した 統合デジタル健康管理システム標準化プロジェクト発足について -----

日本 PACS 研究会/ePHDS 委員会/後援：日本 I H E 協会

近年の健診車の X線撮影装置をはじめとする健診用機器のデジタル化により、画像情報を含む健康管理情報を活用し、経年的且つ健診機関をまたぐ健康管理の実現の機が熟しています。産業保健・地域保健等に関して重要な役割を果たしている画像情報、身体計測や検体検査情報を含むデジタル情報の統合化が、健診情報の活用範囲を格段に広げることが期待されます。また国レベルでも健康情報活用に関連した環境整備が行われています。一方、現状の画像を含めたデジタル健診システムは、ベンダ及び各健診機関が独自に開発したため、相互運用性が十分ではなく、施設内および施設間の共通利用による統合的な健康管理に齟齬が生じています。健診機関のデジタル化の途上である今こそ、ベンダと健診機関・健康管理分野の協力による標準的な実装指針の策定が望まれます。日本 PACS 研究会では、この講演会を通じて、健診機関・健康管理分野の現場で活躍されている専門家に、現行の個人健康情報の活用の現状と課題および標準化の必要性を明らかにしていただき、こうした課題に対応する「統合デジタル健康管理システムの標準化活動」を進めたいと考えています。

日 時： 2012 年 2 月 24 日（金曜日） 13:00-16:50 (12:35 受付開始)

場 所： フクダ電子(株) 本郷事業所 本郷新館 1F (<http://www.fukuda.co.jp/company/map.html>)

No.	時間	タイトル	(分)	講師
1	13:00	これからのデジタル健康管理システム ～産業医の考える将来像～	40	産業医科大学生態科学研究所 作業関連疾患予防学 教授 大神 明
	13:40	Q&A	5	
2	13:45	統合デジタル健康管理システムの標準 化活動の構想と制度上の課題	35	株式会社エム・ピー・オー 代表取締役 森口 修逸
	14:20	Q&A	5	
3	14:25	運用側から見た、医用画像を含む個人 健康情報共通利用の課題 ・健診機関内での医用画像活用の技術的課題 ・健診情報の相互運用性の現状	30	(財)神奈川県予防医学協会 放射線技術部部长 見本 真一
	14:55	Q&A	5	
	15:00	休 憩	15	
4	15:15	健診分野における IHE 統合プロファイ ルの応用について	35	京都医療科学大学 医療科学部 放射線技術学科 教授 細羽 実
	15:50	Q&A	5	
5	15:55	健診分野のデジタル化を巡る周辺動向 ・社会保障・税番号大綱「番号制度」について ・「どこでもMY病院」構想等の実現について	35	日本 PACS 研究会 会長 喜多 紘一
	16:30	Q&A	5	
6	16:35	「統合デジタル健康管理システムの標 準化活動 WG」参加募集説明	10	日本 PACS 研究会 会長 喜多 紘一
	16:45	Q&A	5	

参加費：	日本 PACS 研究会会員企業	¥2,000-(資料代)
	大学・産業医・健診機関関係者(要 ID)	¥3,000-(資料代込み)
	会 員 以 外 (企業)	¥5,000-(資料代込み)

参加方法：下記の事務局宛に（参加者氏名・所属・e-mail アドレス）をご連絡下さい。

事務局：jpacs@quantum-inc.jp（締切り：2012 年 2 月 17 日 12:00）

なお、客席数(60名)に限りがありますので、満員となった場合は、受付を終了いたします。

日本医療情報学会医療情報技師ポイント(予定)：参加者に 1 ポイント付与。当日「受講証明書」を発行します。

お問合せ先：日本 PACS 研究会事務局 <http://www.jpacs.jp/>

TEL: 03-5684-1636 FAX: 03-5684-1650 E-mail: jpacs@quantum-inc.jp

* 写真・ビデオ撮影は事務局・講演者の許諾がある場合を除いて禁止致します。